

平成28年 鴨川市10大ニュース（詳細）

順位	できごと（期日）	内 容
1	<p>将来都市像の実現に向け 新たな総合計画がスタート 鴨川市人口ビジョン、鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略も本格実施へ</p> <p style="text-align: right;">（4月1日）</p>	<p>市では、平成28年度から平成37年度までの10年間の新たなまちづくりを担う「第2次鴨川市総合計画」を策定。将来都市像を「活力あふれる健やか交流のまち鴨川～みんなが集い 守り育む 安らぎのふるさと～」と定め、新たなまちづくりに向けた取り組みを4月からスタートしました。また、市の人口の現状・将来の展望を提示する「鴨川市人口ビジョン」と、今後の施策の方向を提示する「鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、海辺のまちづくりや鴨川版CCRC（生涯活躍のまち）の形成など、地方創生に向けた本格的な取り組みを開始しました。</p>
2	<p>オルカ鴨川FCが チャレンジリーグ優勝 来季「なでしこリーグ2部」へ</p> <p style="text-align: right;">（9月11日）</p>	<p>今季、女子サッカーなでしこリーグ3部に当たるチャレンジリーグから、2部への昇格を目指してきたオルカ鴨川FC。9月11日（日）にプレーオフ順位決定戦の最終戦に臨み、静岡産業大学磐田ボニータを2対0で破りました。その結果、チャレンジリーグのEASTとWESTの上位4チーム中、3戦全勝（勝ち点9）で首位を確定させ、来季からのなでしこ2部リーグへの自動昇格を決めました。県内で2部以上のなでしこリーグに所属するのは、1部の「ジェフユナイテッド市原・千葉レディース」に続き2チーム目となります。</p>
3	<p>子ども医療費の助成範囲を拡大 中学校3年生まで無料に</p> <p style="text-align: right;">（4月1日）</p>	<p>市では、「子ども医療費助成制度」により、通院費・調剤費については小学校3年生まで、入院費については中学校3年生まで、医療費の助成を行っていましたが、4月診療分から、通院費と調剤費、入院費すべてについて中学校3年生まで無料としました。</p>

4	<p>県南初の津波避難タワー 小湊小学校に完成</p> <p>(12月)</p>	<p>小湊小学校の校庭に、県南では初となる津波避難タワーが完成しました。津波避難タワーは、鉄骨構造で、避難場所となる最上部のステージまでの高さは12m、ステージの面積は100㎡で、200人程度の収容が可能です。塩害に強い溶融アルミニウムメッキを全国で初めて採用するなど、耐久性にも配慮した造りとなっています。総事業費は9,205万9千円です。</p>
5	<p>天津地区と小湊地区を結ぶ (仮称)新実入トンネルの 工事がスタート</p> <p>(5月)</p>	<p>県では、天津地区と小湊地区を結ぶ新たな道路「国道128号実入バイパス」の整備に取り組んでいます。これは、現在の実入トンネル周辺の道路が災害や事故などにより通行止めとなった場合に迂回路となる代替道路を確保するため、整備を進めているものです。トンネルの総延長は683mで、幅員は車道3.25m×2車線。本格的な掘削作業は来年9月まで行われます。</p>
6	<p>認定こども園OURSが開設 これに伴い子育て短期支援事業・ 一時預かり事業がスタート 24時間365日対応の 保育サービスが利用可能に</p> <p>(4月1日)</p>	<p>社会福祉法人太陽会が、市から30年間の土地の無償貸与を受けて建設した、幼保連携型の認定こども園「OURS」が東条地区にオープンしました。幼保一元化を推進してきた市では、大規模な幼保一体化施設の建設が切望されていた中で、平成26年に太陽会から幼保連携型認定こども園を設置したいとの提案があり、公立の施設に代わる施設として位置付け、設置を支援することにしました。OURSの開設に伴い、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった児童を預かり、必要な保護を行う「子育て短期支援事業」や「一時預かり事業」など各種事業がスタート。市内には医療機関や宿泊施設に勤務する方も多く、以前から夜間や休日の保育サービスを望む声があり、これらに対応するサービスを確保することは長年の懸案事項でありましたが、この事業により、在宅児を含むすべての就学前の子どもの育ちに配慮した24時間365日対応の保育サービスが利用可能となりました。</p>
7	<p>総合運動施設サッカー場を リニューアル 人工芝の敷設、</p>	<p>市では、日本スポーツ振興センターの「平成27年度スポーツ振興くじ助成金(toto助成金)」を活用し、総合運動施設のサッカー場の改修工事を実施しました。フィールドには人工芝を敷設し、夜間照明や防球ネットも整備しまし</p>

	夜間照明や防球ネットを整備（3月）	た。総事業費は、約1億8,190万円です。
8	地方創生人材支援制度を活用して 総務省から参事を招へい (4月1日)	市では、新たな役職「参事」として、総務省の岩田知也氏を採用しました。市での国家公務員の派遣受入れは初めての試みとなります。これは「地方創生人材支援制度」を活用して、地方創生に関する業務を総括的に担うための人材を求めたものです。派遣期間は今年4月1日から2年間を予定。参事は、総合戦略に基づく施策、および地域振興施策全般の推進を始め、総合戦略の進行管理、日本版CCRCを核としたまちづくりに関する構想の策定など、地方創生に関する業務全般を、総括的に担います。
9	ソフトボール女子日本代表チーム (宇津木ジャパン)の 来春合宿開催が決定 (11月21日)	2020年東京五輪で金メダルを目指すソフトボール女子日本代表チームが、鴨川市総合運動施設で来春の強化合宿を実施することが決定しました。平成30年8月に「第18回世界女子ソフトボール選手権大会」が、県内を会場地として開催される予定となっていますが、市ではこの大会の事前合宿を契機として、オリンピックなどを見据えた通年合宿につながることを念頭に、日本代表チームの誘致を進めていたものです。今回の強化合宿は、その第一弾として実施されることとなります。代表選手は、12月の味の素ナショナルトレーニングセンターを皮切りに、沖縄、台湾、オーストラリアの合宿を経て、第4次強化合宿を鴨川市で行います。合宿時期は、来年3月10日（金）から17日（金）までの予定です。
10	千葉ロッテマリーンズ 鴨川秋季キャンプを実施 来場者数は過去最高2万6,500人に (11月1日から22日)	11月1日（火）から22日間の日程で、千葉ロッテマリーンズ2016秋季鴨川キャンプが総合運動施設で行われました。ロッテ球団1軍の秋季キャンプは、平成22年から始まり、今年で7年目。キャンプ期間中には、千葉ロッテマリーンズ鴨川後援会の会員などによる地元サポートや、ファンの声援が猛特訓に打ち込む選手たちを支えました。一方、選手たちも野球教室やサイン会・写真撮影会、福祉施設の訪問を通じ、ファンサービスや地域の皆さんとの交流に時間を割いていました。なお、22日間のキャンプには、過去最高となる延べ2万6,500人が来場。経済効果推計額は、約3億4,900万円となりました。

